

農作物技術情報 第7号の要約

平成25年 9月26日発行

岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

作目	技術の要約
水稲	<p>○刈り遅れは品質低下の原因となるので、早めに収穫作業を行う。</p> <p>○倒伏した圃場では、作業速度を遅くし、刈り分けにより品質確保に努める。</p> <p>○日没が早まる時期なので、作業は計画的にすすめ、安全な農作業を心掛ける。</p>
畑作物	<p>大豆: 葉の黄化・落葉が始まっており、収穫は早いところで10月上旬から。適期に収穫できるよう準備をすすめる。施設を利用して乾燥調製を行う場合は、あらかじめ連絡を取り合い、計画的に作業できるようにする。</p> <p>小麦: 小麦の播種適期となっている。適期を逃さず確実に作業を行い、生育量の確保に努める。圃場条件が整わず適期を逃した圃場では、播種量を増やし、目標株立数を確保する。</p>
野菜	<p>生育状況: 施設果菜類、露地果菜類ともに、全般に日照不足や低温の影響等により草勢低下や障害果の発生が見られている。雨よけほうれんそうの生育は概ね順調だが、大雨による浸水の影響で過湿害が見られる。レタスは徐々に出荷量が回復傾向であるが、キャベツは小玉で出荷量が少ない傾向である。ねぎは概ね順調な生育となっているが土寄せ作業が遅れているほか、台風18号により倒伏し、出荷に影響する被害が発生している圃場もある。</p> <p>果菜類</p> <p>【雨よけトマト】【雨よけピーマン】今後も気象経過に応じたハウスの適切な温湿度管理で草勢維持をはかるとともに、障害果の発生防止対策を行う。灰色かび病等の病害の予防やタバコガ類等の防除を徹底する。</p> <p>【露地きゅうり】草勢維持を重点に、採光性を考慮した摘葉、不良果の早め摘果等を行う。病虫害防除は褐斑病、炭そ病、べと病を重点に行うほか、次年度へ向けた準備として適宜残さ検診、資材消毒などを行う。</p> <p>雨よけほうれんそう: 年内収穫用にもう1作播種し、温度管理とべと病、ハウレンソウケナガコナダニ、シロオビノメイガ等の病虫害防除を徹底する。寒締め栽培では、品種の特性に合わせ遅れないように播種し、温度管理と病虫害防除を徹底する。</p> <p>キャベツ、レタス等: 適期収穫に努め、使い終わったマルチや病害で収穫しなかった株は適切に処理する。</p>
花き	<p>りんどう: 花腐菌核病の防除を徹底する。翌年の病虫害発生を抑えるため、収穫後の病虫害防除と残さ処理等収穫後の管理を行う。</p> <p>小ぎく: 来年の栽培に向け品種構成を考慮し親株の伏せ込みを実施。伏せ込みには健全な親株の使用を徹底する。</p>
果樹	<p>生育状況: りんごの果実生育は、厳しい気象条件にもかかわらず概ね平年並み。中生種の果実品質は、硬度、でんぷん指数は平年より高め、糖度は平年より低い。</p> <p>りんご: 県オリジナル品種「紅いわて」は県南部で収穫期を迎えている。食味重視で収穫すること。他の中生品種も適期収穫とすぐりもぎを徹底する。</p>
畜産	<p>トウモロコシ: 熟期を確認し、速やかに収穫作業を進める。</p> <p>牧草: 維持草地では、刈り取り危険帯の時期を避け、刈り取りを行う。</p>

詳細については「いわてアグリベンチャーネット」をご覧ください。 <http://i-agri.net>（「いわてアグリ」と検索すると上位に表示されます）

○秋の農作業安全月間実施中（9月15日～11月15日）「慣れと油断が事故のもと いつもの作業もまず確認！」

次号は平成25年10月31日発行の予定です

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第7号 水稻

発行日 平成25年 9月26日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

県内全域で刈り取り作業が進んでいます。刈り遅れは品質低下の原因となりますので、早めに収穫作業を行いましょう。

倒伏した圃場では、作業速度をできるだけ遅くし、刈り分けにより品質確保に努める。日没が早まる時期なので、作業は計画的にすすめて、安全な農作業を心掛けましょう。

1 適期刈り取りの励行

刈り遅れは着色粒や胴割粒等の発生を増加させ品質低下につながります。刈り取りがまだの場合は早めに刈り取りましょう。

2 農作業安全

日没が早まる時期ですので、計画的に作業をすすめ、安全な農作業安全を心掛けましょう。

- ・圃場での移動、運搬の際の転倒事故や追突事故には十分注意する。
- ・コンバインにワラ等が詰まった場合には、必ずエンジンを止めてから作業する。
- ・夕方の事故が多いので、休息を十分にとり、焦らず、慎重な作業を心がける。
- ・反射材や低速車マークを取り付け、路上走行中の追突事故を防止する。

3 乾燥・調製の留意点 **仕上げ水分は 15.0%以下を徹底しましょう！**

(1) 胴割れ粒の発生防止

- ・1時間あたりの乾燥速度(水分低下)は0.8%以下とし、送風温度に十分に注意する。急激な乾燥や過乾燥は避ける。
- ・自然乾燥の場合、乾燥期間は2週間以内とし、乾燥が不十分な時は乾燥機で仕上げる。

(2) 籾すり時の肌ずれ、脱ぶの防止

- ・玄米水分 15.0%以下の適正水分で籾すりを行う(肌ずれ米の防止)。
- ・ロール間隔は、籾の厚さの約 $1/2$ (0.5~1.2mm) に調整する。脱ぶ率は85%を基準とする。

(3) ライスグレーダー粒選別

- ・出荷製品となる玄米は、LL (1.9mm) の篩い目を使用し、整粒歩合 80%以上に仕上げる。

農作物技術情報第8号は10月31日(木)発行の予定です。
気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
※ 発行時点での最新情報に基づき作成しております。
※ 発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日~11月15日は秋の農作業安全月間
慣れと油断が事故のもと いつもの作業もまず確認！**

中央農業改良普及センター県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第7号 畑作物

発行日 平成25年 9月26日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ **大豆** 生育の早いところでは葉の黄化・落葉が始まっていますので、ほ場観察をこまめに行い、適期に収穫できるよう準備をすすめましょう。施設を利用して乾燥調製を行う場合は、あらかじめ連絡を取り合い、計画的に作業できるようにしましょう。また、台風20号が接近していますので、収穫作業に支障が出ないよう排水対策を行いましょう。
- ◆ **小麦** 小麦の播種適期となっています。適期を逃さず確実に作業を行い、生育量の確保に努めましょう。ほ場条件が整わず適期を逃したほ場では、播種量を増やし、目標株立数の確保に努めましょう。

大豆

1 生育の状況

生育の早いところから黄化、落葉が始まっており、早いところでは10月上旬に収穫適期になります。まだ青々としたところから落葉したところまで、ほ場によって差があるので、ほ場をよく観察し、刈り遅れないように準備をすすめましょう。

7月の長雨の影響で、湿害による生育不良や茎疫病等の立枯性病害が発生している圃場が散見されています。このような株は、登熟が十分進まずに粒の充実が劣ることがありますので、圃場をよく観察し、明らかに登熟状況が異なる場合には、健全なものと分けて刈り取るようにしましょう。

2 収穫作業のまえに

(1) 台風対策

台風20号が接近しています。収穫作業に支障が出ないように、周囲溝や排水口などを点検・補修し、速やかに排水できるようにしておきましょう。

(2) 除草

アメリカセンダングサ、シロザなどの大型雑草は、収穫時に汚損粒の発生原因となるので、収穫前に取り除きましょう。

(3) コンバインの清掃

収穫作業の前には必ず清掃点検を実施し、作業に支障が出ないか確認しておきましょう。

また、土をかみ込んだ時など収穫作業中でもコンバインの清掃が必要となることがあるので、清掃のポイントを把握し、効率的に行えるようにしておきましょう。

(4) 乾燥・調製施設の確認

乾燥・調製施設を利用する場合には、その稼働計画について確認し、ほ場の様子を踏まえた上で、刈り取りの順番、収穫機械やオペレーターの確保等、準備をすすめましょう。

3 収穫

(1) 成熟期の判断

適期に収穫するためには、まず成熟期を知ることが必要となります。

成熟期は次の2つから判断します。

- ア ほ場のほとんどの株で、大部分の莢が熟色になっている
- イ 莢の中の子実が乾燥子実の形になっている

莢を振ってカラカラ音がするようになったら、数カ所で実際に莢をむいて確認します。成熟期を確認したら、表1を参考に収穫作業に入ります。

表1 成熟期からコンバイン収穫適期までの日数

品種	成熟期からコンバイン収穫適期までの日数		
	早限	晩限	収穫(適)期間
コスズ、すずほのか	7～10 日後	30 日後	20～23 日
ユキホマレ	7～10 日後	20～25 日後	10～18 日
ナンブシロメ、スズカリ	10 日後	20～25 日後	10～15 日
リュウホウ	10 日後	20 日後	10 日
青丸くん	10 日後	16 日後	6 日間前後

※「青丸くん」は刈り遅れると子実の色抜けが生じることから、直ちに刈り取れる体制を整えておき、収穫適期間になったら、一気に刈り取るようにする。

(2) コンバイン収穫のポイント

ア 収穫時の茎水分は 50%以下

茎水分が 50%を超えると、こぎ胴で揉まれ、汚損粒の発生原因となります。茎水分 50%以下の目安は、分枝が手でポキポキと折れるときです。周囲の株と違い、青々として残っている株は必ず抜き取ってください。また、冠水や倒伏により莢に泥が付着したり、高温・乾燥により早くから落葉するなど、品質低下が懸念される場合は刈り分けを行いましょう。

イ 収穫時の子実水分は 18%以下

収穫時の子実水分は、損傷粒の発生に大きく影響します。子実水分が 20%以上と高すぎる場合は、つぶれ粒を主体とする損傷粒が多くなり、15%以下と低すぎる場合は、裂傷や割れ豆などの損傷粒が多くなる傾向があります。

ウ 収穫の時間帯は茎葉がよく乾いた頃

晴れた日の場合、午前 10 時過ぎ～午後 5 時頃までが目安です。

4 乾燥

(1) 乾燥

子実水分が高いものを急速に乾燥させると、裂皮粒やしわ粒発生の原因となります。子実水分を均一に低下させるよう、送風温度等に留意しましょう。

(2) 被害粒発生のしくみ

被害粒のうち、裂皮粒やしわ粒は、子実肥大期での充実不足等、成熟期までに生理的に起きるものもありますが、乾燥時にも発生することが知られています。土作り等で地力の維持に努めることや、乾燥時に急速な乾燥を避けることも必要です。また、亀甲じわは、子実形成から収穫期前後までの乾燥・吸湿の過程で、皮と子実の収縮・伸長の繰り返しが原因でおきるので、刈り遅れは厳禁です。

小麦

1 小麦の播種適期を迎えています

例年、播種が遅れ生育量が足りないまま越冬する小麦ほ場が多く見受けられます。表 2 を参考に適期を逃さず作業を行い、生育量の確保に努めましょう。

ナンブコムギは、縞萎縮病に弱いため、例年縞萎縮病の発病が見られる圃場で作付けをすると、播種時期の気温が高いほど翌春の発病程度が高まり、減収します。このような圃場でやむを得ず連作をする場合には、適期内でできるだけ晩播とすることが被害軽減に有効です。

表 2 県内の地帯別播種適期

地帯	播種期 (月. 日)		適期日数 (日間)
	早限	晩限	
高標高地	9. 15	9. 25	11
県北部	9. 15	9. 30	16
県中部及び沿岸北部	9. 20	10. 5	16
県南部	9. 25	10. 20	26

2 もしも適期を逃したら・・・播種時期が遅れたときの考え方

(1) 播種適期を守るのが基本ですが、ほ場条件が良くない場合、無理に播種しても発芽不良になるだけですので、その場合は作業を見合わせましょう。

(2) 適期が過ぎてしまった場合は、各地帯の播種晩限から 1 週間遅れるごとに 10%播種量を増やし、

目標株立数を確保できるよう努めましょう（表3）。

表3 品種別の播種量と目標株立数

品 種 名	播 種 量 (kg/10a)		目 標 株 立 数 (株/m ²)	千 粒 重 (g)
	ドリル播	全面全層播		
ナンブコムギ	4～6	5～8	75～120	41
ネバリゴシ	6～8	8～10	130～170	37
ゆきちから	6～8	8～10	120～160	39
コユキコムギ	6～8	8～10	120～160	41
キタカミコムギ	6～8	8～10	115～150	42
ファイバースノウ (大麦)	6～8	8～10	130～170	38

注) 播種粒数に対して株立率を80%（全面全層播は64%）として求めた。

4 排水対策を万全に

水稻の刈り取り後、小麦を作付けするほ場については地表水の速やかな排水を促すため、できるだけ早く額縁明渠を設置しましょう（→必ず排水路につなげて下さい）。

ほ場内明渠は、播種後に実施することも可能です。十分な準備ができない場合、播種後の施工も想定しておきましょう。

農作物技術情報第8号は10月31日（木）発行の予定です。
気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
※ 発行時点での最新情報に基づき作成しております。
※ 発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

9月15日～11月15日は秋の農作業安全月間
慣れと油断が事故のもと いつもの作業もまず確認！

中央農業改良普及センター・地域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第7号 野菜

発行日 平成25年 9月26日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 台風対策 排水対策と施設の保守点検を万全に
- ◆ 露地きゅうり 重要病害に対する防除の徹底、次年度へ向けた対策準備
- ◆ 雨よけトマト 保温の徹底と裂果の発生防止
- ◆ ほうれんそう 適切な温度管理と病害虫防除の徹底
適期は種と適切な温度管理による品質向上 (寒締めほうれんそう)

1 生育概況

- (1) 8月上旬までの日照不足、局地的な豪雨、台風18号等の影響により、全般に草勢の低下や生育抑制が見られるほか、病害虫の発生も増加傾向にあります。
- (2) 露地きゅうりは、適宜かん水を行っている圃場では草勢も良い状態を保っているものの、7月下旬以降、べと病・炭疽病等の発生が多いほか、台風の影響で葉や果実がもまれ、例年より早く収穫終了となる圃場も散見されます。
- (3) 雨よけトマトは、日照不足の影響8月の着果量が全般に少なく、現在は小玉傾向となっています。気温低下とともに裂果の発生が増加しており、出荷量は減少傾向です。オオタバコガの発生はあるものの、防除の徹底により被害は比較的軽微です。
- (4) ハウス・露地ピーマンともに、草勢の低下と気温低下に伴い果実肥大が遅れる傾向にあり、露地ピーマン主体に赤果の発生が多くなっています。斑点病・タバコガの被害が、依然みられており9月以降増加した地域もあります。
- (5) 雨よけほうれんそうは、概ね順調に生育していますが、台風18号等の大雨による浸水の影響で過湿害が見られます。害虫では、シロオビノメイガ、ヨトウガによる食害やホウレンソウケナガコナダニの被害が見られます。
- (6) ねぎは、収穫が継続して行われていますが、降雨が続いたため土寄せが遅れ気味で、軟白のボケが目立つ傾向です。黒斑病、黄斑病、べと病、ネギコガ、シロイチモジヨトウの発生が一部の地域で見られます。また、台風18号の影響で倒伏し、出荷に影響する被害が発生した圃場も見られます。
- (7) キャベツは、日照不足や低温の影響で生育が緩慢で小玉傾向です。病害虫ではべと病、コナガ、ヨトウガの発生が一部で見られます。レタスの生育は概ね順調ですが、腐敗病が多発した圃場が見られます。害虫ではオオタバコガの被害が一部の圃場で見られます。

2 技術対策

(1) 台風対策

台風20号が接近しています。状況に応じて排水対策、施設の保守点検など、事前事後対策を徹底してください。技術内容の詳細については、H25.8.29及びH25.9.17発行の「号外 台風対策」を参照してください。

(2) 露地きゅうり

今後は、気温も低下してくることから強い摘心は控え、アーチから飛び出した弱い芯を指先で摘

む程度に止めます。摘葉は病葉・古葉・黄化葉等を中心に行い、草勢維持を図りましょう。

7月下旬以降、べと病・炭疽病等の発生圃場が多いほか、褐斑病も増加傾向です。多発圃場では、収穫残さや支柱、番線、かん水チューブなどに付着した病原菌が翌年の発生源となりますので、栽培終了後は速やかに残さの片づけや資材の消毒を実施しましょう。

また、本年度株が急に萎れる症状が見られた圃場では、収穫終了後速やかに根を掘り上げて、ホモプシス根腐病の感染がないか確認しましょう。疑わしい症状が見られた場合や、次年度の作付けに不安がある場合は、最寄りの指導機関に連絡し、残さ検診を受けることをお勧めします。



写真1 ホモプシス根腐病による根の状態
(左上：黒変症状 右：200倍に拡大)

(3) 雨よけトマト

急激に気温が低下した影響で、裂果の発生が増加しています。

今後、さらに発生しやすい環境が続くことから、夜間の保温に留意してください。この際、ハウスの密閉により湿度が高くなり、葉かび病や灰色かび病がしやすくなるので、防除の徹底に努めてください。

また、裂果の発生軽減技術として全摘葉処理が有効です。全摘葉処理の方法は、9月末から10月初めまでの間に写真のように葉を全て摘んだ後、霜が降りる前につる下げし、不織布をべたがけします。低温や霜の影響が回避され、収穫可能な果実が増加するとともに、裂果の発生を減らすことができます。



写真2 全摘葉処理を行うことで、裂果の発生を防ぎ収穫可能な果実が増加する。時期は9月下旬～10月初めまでとする

(4) ピーマン

雨よけ栽培では、夜間の保温により生育温度の確保に努めましょう。

全体的に赤果やひび割れ果の発生が増えています。特に下り枝に着果している果実は早めに除去し、草勢維持と早期収穫に努めて下さい。また、露地栽培では、斑点病の発生と腐敗果の増加のおそれがありますので、降雨前後にはカスミンボルドー等の散布により発生低減を図りましょう。

(5) 雨よけほうれんそう

年内収穫のため、もう1作は種することを検討しましょう。低温伸長性のよい品種を選択し、ハウスの開け閉めなどによる温度管理を適切に行い、年内に確実に収穫できるようにしましょう。

ハウスを閉める時間が長くなると、べと病の発生も多くなります。べと病抵抗性品種を利用している場合であっても、日中は積極的に換気して、病害が発生しにくい条件にするとともに、殺菌剤の予防散布も行ってください。

ホウレンソウケナガコナダニによる被害が多くなる時期です。近年は夏期に被害が見られるほ場もあり、発生が周年化しています。今年被害があった圃場では、早期に殺虫剤の散布を行いましょう。農薬散布は薬液が心葉まで届くように丁寧に行いましょう。また、今年もシロオビノメイガの食害が見られます。幼虫は最初、心葉の隙間に入り込んでいるため見つけにくいので、注意して観察し、防除が遅れないようにしましょう。



写真3 シロオビノメイガによる食害 (矢印の部分に幼虫がいます)

作付け終了後は、来年の施肥管理の適正化のために、土壌診断を受けましょう。

(6) 露地葉茎根菜類

ア ねぎ

最終土寄せから収穫までの日数が長くなりすぎると、品質の低下につながります。9月収穫では収穫の20日前、10月収穫では収穫の30日前を目安に、気象情報を参考にして計画的な作業に努めましょう。

収穫間際の病虫害発生は、品質低下につながります。早めの防除を心がけるとともに、農薬散布は収穫前日数に注意して適正に行いましょう。

イ キャベツ・レタス

県北高冷地の収穫は終盤です。作付け終了後のマルチ、残渣の処理を適切に行いましょう。病害により収穫できなかったものは早めに処理して、被害が蔓延しないように注意しましょう。

来年に向けて土壌診断の実施や堆肥施用による土づくりに努めましょう。

(7) 冬春野菜

ア 寒締めほうれんそう

ハウス栽培では10月中旬までが播種時期です。品種の特性に合わせ適期に播種し、次のことに留意して管理しましょう。

過剰な保温により生育が進むと、寒締めを行う前に収穫サイズに達してしまう一方、温度が低すぎると生育が大幅に遅れ、収穫期が遅くずれ込んでしまいます。本県の寒締めほうれんそうの出荷期間は12月～翌2月が基本ですので、ほうれんそうの生育状況に応じて、適切な温度管理を行いましょう。詳しくは平成17年度試験研究成果「寒締めほうれんそうの作期判定と生育調節技術」を参照して下さい。

冬期間は、大雪の影響でパイプハウスが倒壊する場合があります。寒締めほうれんそうを作付けするハウスは1棟おきにして、作付けしないハウスはビニールを外す等、除雪しやすいようにしましょう。

イ 伏せ込み促成アスパラガス

気温の低下とともに、地下部への養分転流が進む時期です。地上部が自然に黄化して枯れ上がるようにするため、台風による倒伏などで、茎葉が傷むことがないようにしましょう。

本年度も気温は高めに経過する見込みです。根株の無理な早掘りは収量の低下につながりますので、5℃以下の低温遭遇時間を参考にするなど、適切な時期の掘り上げを心がけましょう（平成18年度試験研究成果「アスパラガス年内どり作型における1年養成根株の掘り取り時期」参照）。

農作物技術情報第8号は10月31日（木）発行の予定です。
気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
※ 発行時点での最新情報に基づき作成しております。
※ 発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は秋の農作業安全月間
慣れと油断が事故のもと いつもの作業もまず確認！**

中央農業改良普及センター県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第7号 花き

発行日 平成25年 9月26日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 台風対策 排水・倒伏対策や施設の保守点検を万全に行いましょう。
- ◆ りんどう 花腐菌核病防除の徹底と、翌年に向けた収穫後管理を行いましょう。
- ◆ 小ぎく 健全な親株を確保しましょう。

りんどう

1 生育概況

今年の彼岸需要期は各地域でやや開花の遅れや県北部を中心に台風18号による被害が発生しましたが、概ね順調に出荷されました。

病害虫では花腐菌核病の発生が始まっているほか、黒斑病、アブラムシの発生が増えています。県北部ではハダニ類の越冬成虫がみられてきています。リンドウホソハマキ、オオタバコガの発生は昨年より少なくなっています。

2 台風対策

冠水や土砂が流入する等の被害が発生した圃場ではできるだけ速やかに事後対策を実施します。倒伏した畦は早めに起こし、通路や畦の上にたまった汚泥はできるだけ取り除きます。また、折損があった茎葉は被害部分を取り除き、病害の発生を抑えるため殺菌剤を散布します。

今後も圃場に水路などから水が入らないよう土嚢などで対策するとともに、長時間滞水しないよう排水路の点検を行うなど排水対策を徹底してください。また、強風による折損や倒伏の恐れがある場合は、支柱やネットの強度を確認し補強します。

3 病害虫防除

(1) 花腐菌核病

県中、県北地域では発生が始まっており、昨年より多い傾向となっています。花腐菌核病は花弁から感染します。蕾から花弁が見えている品種は花蕾部への防除が必要です。降雨が続く場合は散布間隔を短くし防除してください。また、発病がみられた場合は、菌核ができる前に被害茎を圃場外に持ち出して処分します。

(2) 褐斑病

昨年より発生が多くなっています。発生のみられた圃場では、翌年の発生を軽減するため、被害茎葉を圃場外に持ち出して処分します。

(3) リンドウホソハマキ

発生は少ない傾向ですが、茎への侵入による被害の発生がみられています。また、定植一年目の圃場でも被害が発生しています。発生のみられる圃場では、残茎葉の折り取りを確実にし、圃場外で確実に処分します。

(4) ハダニ類

発生が続いています。県北部では薬剤が効きにくい越冬成虫も見られ始めています。圃場をよく観察し、越冬成虫がみられた圃場では気門封鎖型の薬剤を利用し防除します。



定植年のリンドウホソハマキ被害

(5) アブラムシ類・アザミウマ類

開花中～開花後に特に増加します。これらの害虫は、ウイルス病を媒介する恐れがあることから、収穫後の残花部分は確実に折り取り発生を抑えます。極晩生種でも発生が広がるので薬剤散布に努めます。

4 収穫後の管理

- (1) 収穫後の圃場は病虫害防除がおろそかになりがちで、病虫害が多発しやすくなります。翌年の発生原因ともなるので、収穫後も防除を継続してください。
- (2) 収穫後は花の着いた茎の部分を折り取り病虫害防除と株養成を促します。定植年の株でも開花しますので、花はできるだけ摘み取ってください。
- (3) 茎葉の折り取りや刈払いは、ウイルス病などの感染を防ぐため茎葉が完全に枯れてから行います。晩生種や極晩生種は枯れる時期が遅くなりますが、無理な折り取りは株を傷めますので、その場合は春に折り取るようにします。
- (4) 翌春の雑草対策のため、秋のうちから圃場内外の雑草防除を行うことが効果的です。

小ぎく

1 生育概況

9月咲き品種は昨年のような高温による開花遅延は少なく、概ね順調に開花しています。

病虫害では、白さび病やハダニ類の発生が依然として多く、アブラムシ類の発生もみられています。また、オオタバコガは昨年と比べ少ない傾向ですが、一部の地域では発生が続いています。

2 台風対策

大雨や台風などで降水量が多くなっており冠水したほ場などでは茎葉の黄化や萎れが増えています。

今後も圃場に水路などからの水が入らないよう土嚢などで対策するとともに、長時間圃場に滞水しないよう速やかに圃場の外へ排水するようにします。また、強風による折損や倒伏の恐れがある場合は、支柱やネットの強度を確認し補強してください。

3 病虫害防除

(1) 白さび病

各地域で発生が多くなっています。品種によって中位葉から上位葉まで発生がみられます。今後も雨が多くなると白さび病の感染が多くなりますので、散布間隔があかないよう薬剤防除してください。また翌年の親株にも伝搬しないよう注意してください。

(2) ハダニ類

発生が多くなっています。これから収穫になる圃場のほか、翌年の親株にも防除を継続します。薬剤散布は葉裏へ十分薬剤が付着するように行います。

- (3) 上記の病虫害の他、アブラムシ類、アザミウマ類、オオタバコガの発生もみられていますので、防除を継続します。

4 親株管理

(1) 栽培計画

翌年の栽培に向け、各品種の開花期や特性を整理します。そのうえで品種構成や作付面積を決定し、必要な親株の数量を確保します。

(2) 親株選抜

翌年採穂用の親株は、収穫前の選抜を徹底します。開花期が狙う時期に合っていること、草丈がよく伸び、本来の品種特性を備え揃っていること、葉の枯れ上がりが少ないこと、病虫害に侵されていないこと等を確認して優良な株を選抜します。

(3) 親株管理

翌年採穂用に選抜した親株には、収穫後、マルチを剥ぎ順次土寄せ、追肥を行って株養成します。茎が伸びてきたら適宜台刈りを行い、伸びすぎないように管理します。

親株のハウスへの伏せ込みは10月下旬～11月上旬頃までに行い、早めに活着させるよう管理します。伏せ込みは、品種や株の充実状態等により適する方法が異なり、また病害虫の持ち込み程度も異なるので、適した方法で作業を進めてください。

ア 親株の伏せ込み

冬至芽の発生の少ない品種に適し、作業の手間も少なく済みますが、白さび病などの病害を持ち込むことが非常に多くなるので、薬剤散布に注意が必要となります。

イ かき芽利用

冬至芽の発生の遅い品種、少ない品種に有効ですが、病害を持ち込みやすく、株での伏せ込みより手間がかかります。

ウ 冬至芽利用

揃いが良くなり病気の持ち込みが少なくなりますが、伏せ込み作業に労力がかかり、冬至芽の発生が少ない品種には利用できません。品種の特性を十分に理解して、それぞれに適した増殖方法を選択してください。

ストック

1 定植後の管理

(1) かん水

蕾が見える頃までは十分にかん水し、草丈を確保します。発蕾後のかん水量が多いと花穂部の徒長や茎の軟弱化を招くので、かん水を徐々に控えます。

(2) 温度管理

できるだけ涼しい温度で管理することを心がけます。霜が降りる頃まではハウスを開放しておきます。強風等によりハウスを閉める場合は循環扇等を利用して空気を対流させ、徒長や菌核病の発生を防ぐよう努めてください。

(3) 追肥

生育に応じて速効性の肥料を施しますが、草姿の悪化を防ぐため発蕾までに終えます。

2 台風対策

被覆資材の破損が拡大しないように、ビニールの小さな破れや傷の補修を行います。また、風が強い場合、施設を閉め切ることになりますが、湿度が上昇して灰色かび病などの病害が発生しやすくなるので循環扇等で空気を攪拌して予防に努めます。

3 コナガ防除

生育中の薬剤防除は、抵抗性獲得を避けるため異なる系統の剤のローテーションでの使用を徹底します。また、ハウスの開口部を防虫ネット（目合いが1mm以下のもの）でふさぐことも効果的です。この場合通気性が悪くなり品質低下の原因となる場合があるので、風通しの悪い場所では注意が必要です。

農作物技術情報第8号は10月31日（木）発行の予定です。
気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
※ 発行時点での最新情報に基づき作成しております。
※ 発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

9月15日～11月15日は秋の農作業安全月間
慣れと油断が事故のもと いつもの作業もまず確認！

中央農業改良普及センター・地域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報

第7号

果樹

発行日 平成25年 9月26日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 「紅いわて」は収穫期をむかえています。
- ◆ りんご中生種の適期収穫・すぐりもぎを徹底しましょう！！

りんご

1 生育状況

(1) 果実肥大

定点観測地点(表1)の果実肥大(横径)を県平均で見ると、6月の干魃、7月の長雨及び日照不足、8月の高温と厳しい気象条件にもかかわらず、概ね平年並となっています。

(2) 果実品質

「ジョナゴールド」の果実品質は、県平均で硬度、でんぷん指数は平年より高く、糖度は平年より低い状態です(図1~3)。なお、早生品種では、最初は硬度、デンプン指数が平年より高めで推移しましたが、後半で平年並み程度となっています。今後の気象によって、着色、熟度の進みが変化することがありますので、適切な管理、適期収穫を心がけましょう。

表1 りんごの果実肥大状況

(単位:mm)

9月11日時点 の生育状況	つがる					ジョナゴールド					ふじ				
	本年 (H25)	前年 (H24)	平年	前年 比(%)	平年 比(%)	本年 (H25)	前年 (H24)	平年	前年 比(%)	平年 比(%)	本年 (H25)	前年 (H24)	平年	前年 比(%)	平年 比(%)
岩手町	87.9	88.0	88.9	100	99	83.5	86.1	87.1	97	96	82.1	82.2	80.9	100	101
盛岡市	83.6	81.8	87.8	102	95	80.2	83.6	86.0	96	93	77.3	82.4	80.2	94	96
紫波町	80.8	85.5	90.3	95	89	77.1	80.2	87.1	96	89	80.6	86.3	82.9	93	97
花巻市	91.4	94.5	87.2	97	105	87.3	83.6	87.0	104	100	82.2	81.4	79.2	101	104
農研センター	90.2	91.1	90.0	99	100	85.1	83.4	87.2	102	98	82.0	81.8	81.4	100	101
北上市	-	-	-	-	-	89.0	90.4	89.4	98	100	85.0	86.4	83.7	98	102
奥州市前沢区	0.0	88.7	89.6	0	0	84.3	86.3	86.0	98	98	83.9	82.0	82.8	102	101
奥州市江刺区	83.9	88.3	87.7	95	96	84.1	85.5	87.4	98	96	73.4	73.7	79.0	100	93
一関市花泉町	100.7	98.6	89.5	102	113	88.5	88.4	86.3	100	103	76.7	78.6	79.0	98	97
一関市大東町	-	-	-	-	-	85.8	88.1	85.0	97	101	79.8	78.0	81.1	102	98
陸前高田市	84.0	90.8	90.6	93	93	89.3	84.4	85.1	106	105	81.1	77.2	79.6	105	102
宮古市	88.3	91.3	88.6	97	100	89.1	92.5	89.0	96	100	83.5	83.0	82.2	101	102
岩泉町	84.0	79.4	89.7	106	94	89.0	89.2	84.3	100	106	81.2	78.5	81.3	103	100
洋野町大野	85.8	93.2	87.8	92	98	81.7	85.9	86.0	95	95	78.0	85.7	79.1	91	99
軽米町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	77.3	76.8	77.7	101	99
二戸市	87.5	90.9	88.1	96	99	82.5	82.9	87.4	100	94	83.4	80.1	81.9	104	102
県平均(参考)	87.1	89.3	88.8	98	98	85.1	86.2	86.7	99	98	80.4	80.8	80.7	99	100

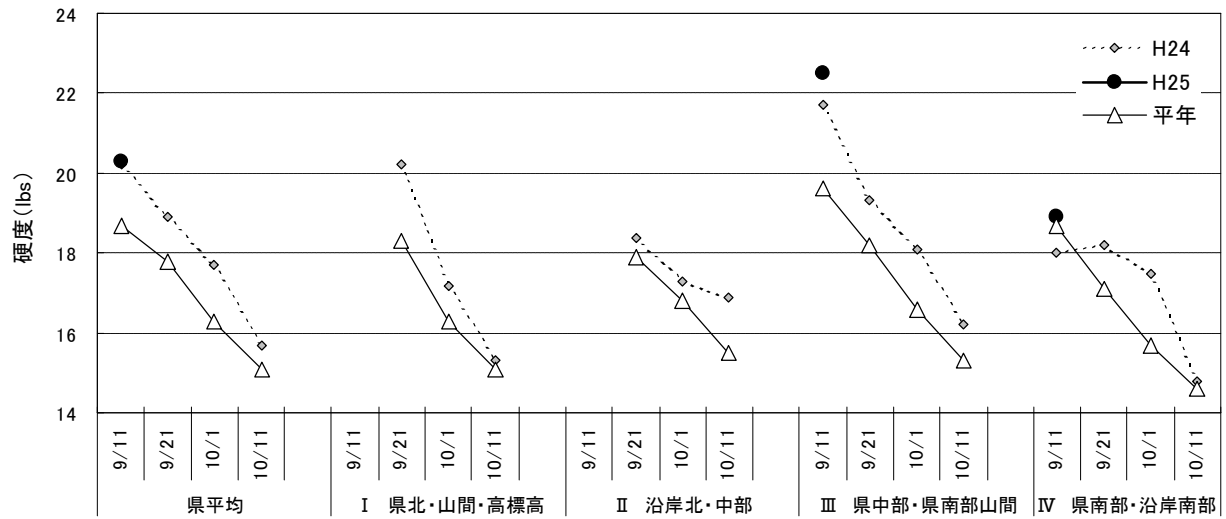


図1 ジョナゴールドの硬度の経時変化

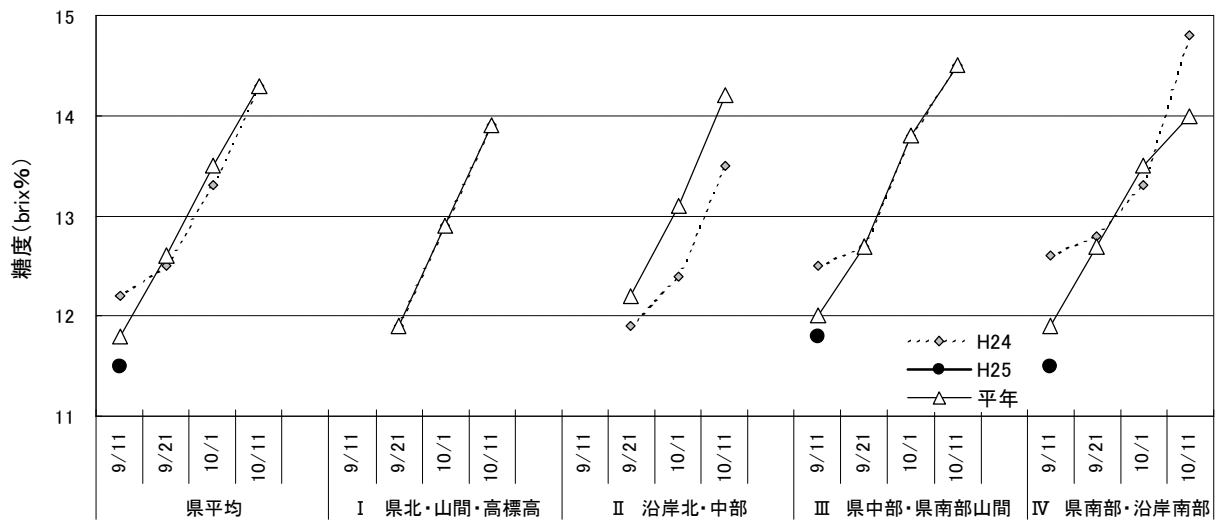


図2 ジョナゴールドの糖度の経時変化

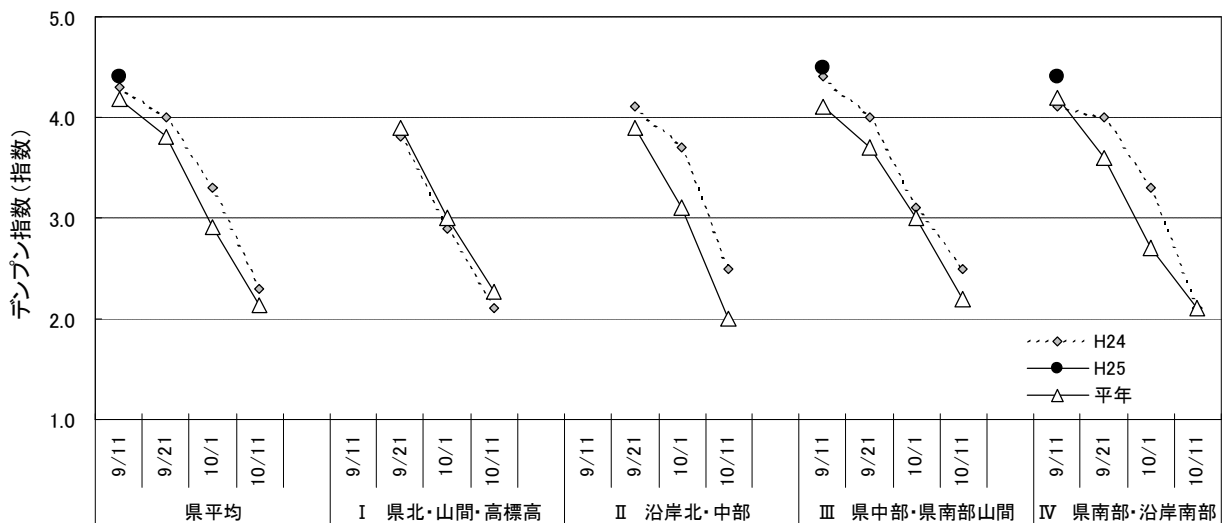


図3 ジョナゴールドのデンプン指数の経時変化

2 管理作業

(1) 「紅いわて」の収穫

- ア 「紅いわて」は、県南部を中心に収穫期をむかえています。
- イ 表2の収穫の目安を参考に食味を確認して収穫期を判断します。着色の良い品種ですが、早取りすると食味が劣りますので、食味重視で収穫してください。
- ウ 昨年のような高温・乾燥条件では早期の果肉軟化やみつ症等の障害が発生する可能性があります。

(2) 中生種の管理

- ア 「ジョナゴールド」などの着色管理は、1回目の軽い葉摘み終了後、陽光面の着色が進んでから、葉や枝カゲをつくらないように玉回しを収穫まで2~3回行います。玉まわしと同時に適当な強さに葉を摘みます。
- イ りんごの着色適温は10~20℃です。気温の高い日が続くと、必要以上に葉摘みを強くしても着色は進まないの、過度の葉摘みとならないよう注意します。
- ウ 「ジョナゴールド」については、着色が不揃いとなりやすいので、徹底したすぐりもぎを行い、収穫と同時に葉摘み、玉回し等着色管理を進めます。
- エ 収穫が遅れると果肉の軟化、果皮の油上がりが発生して、販売上不利になりますので、適期収穫を心がけましょう(表3)。

(3) 「ふじ」の着色管理

- ア 「ふじ」は、着色期間が30~40日間と長い、陽光面が着色してきた頃(9月下旬~10月上旬)と10月中~下旬の2回に分けて葉摘みを行います。1回目の葉摘みは、果実に密着する葉を摘む程度とし、2回目は適当な強さまで葉を摘み、陽光面の着色が進んできたら葉や枝カゲを残さないよう玉回しを行います。
- イ 過度の葉摘みは、葉が少なくなり果実の着色やみつ入りが劣り、翌年の花芽の充実が悪くなるなどマイナスの影響が出ますので注意してください(表4)。

表2 本年の「紅いわて」の収穫時期について

(基準値:農業研究センター:北上市)

デンプン反応指数	指数2以下
糖 度	13%以上

表3 中生・晩生種の収穫開始期の目安

品種	満開日 起算日数	硬度 (lbs)	糖度 (Brix%)
ジョナゴールド	145~155日	13以上	13以上
王林	160~170日	14以上	14以上
シナノゴールド	170日以上	15程度	15以上
ふじ	165~180日	14以上	14以上

表4 「ふじ」の摘葉が果実品質に及ぼす影響(青森りんご試)

処理区分	果周の 増加量 (mm)	糖度 (%)	みつの 発生 (%)	着色	翌年の開 花率(%)
全葉の摘葉	0.74	13.6	0	3	25.0
新しう葉摘葉	3.60	14.5	31	3	58.4
果そう葉摘葉	6.85	14.9	77	4	65.1
無処理	7.40	14.9	86	4	66.6

3 気象災害対策

(1) 台風対策

10月に入っても、まだまだ台風が多く発生する時期です。強風で倒木が発生しないよう、防風ネットの設置、支柱との結束を確認してください。また、気象情報に注意し、場合によっては台風の接近前に収穫を進めるなど、被害を最小限にできるよう対策をとってください。

(2) 湿害対策

台風に伴う大雨や秋の長雨など、園地内が過湿となった場合、裂果や根部の障害による樹勢衰弱の要因となります。園地内に水が停滞しないよう、溝を掘るなど排水対策を実施しましょう。

農作物技術情報第8号は10月31日(木)発行の予定です。
気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
※ 発行時点での最新情報に基づき作成しております。
※ 発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

9月15日～11月15日は秋の農作業安全月間
慣れと油断が事故のもと いつもの作業もまず確認!

中央農業改良普及センター県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第7号 畜産

発行日 平成25年 9月26日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 飼料用トウモロコシ 各地域で収穫が始まっています。刈り遅れないよう、収穫を速やかに進めましょう。
- ◆ 牧草 刈り取り危険帯の時期が近づいています。この時期は収穫や施肥を避けます。

1 飼料用トウモロコシの収穫・調製

- (1) 黄熟期に到達している圃場が多いと推察されますので、子実熟度を確認し、速やかに収穫作業に入ります。(収穫適期については、農作物技術情報第6号を参照してください)。台風が近づいていることから効率的に収穫調製作業を進めて下さい。なお、株の倒伏や折損が生じた場合は、農作物技術情報号外台風事後対策(平成25年9月17日)を参照下さい。
- (2) 熟期が完熟期に近い場合は、子実が硬く、また詰込水分がやや低くなりますので、消化率とサイロ詰め込み密度を高めるため、収穫時の切断長を10mm未満とします。完熟期で破碎処理を行う場合は、切断長19mm、ローラ間隙3mmが目安です。
- (3) 過度の刈り遅れやすす紋病、霜にあたったトウモロコシは、水分含量が低く、開封後、二次発酵が起りやすくなります。ギ酸やプロピオン酸など添加剤の使用を検討しましょう。また、刈り遅れた圃場では、カビが増殖している可能性があります。サイレージを開封するときに、カビの有無をよく確認し、給与時にはカビをしっかりと取り除きましょう。

2 草地管理 — 牧草の刈り取り危険帯 —

オーチャードグラス等の寒地型イネ科牧草は、短日で気温が低下してくると、越冬のために地下部へ養分の蓄積を始めます。この時期に刈り取りを行うと、牧草が再生し、養分の蓄積が不十分となるため、冬季に凍害や雪腐れ病の影響を受けやすく、越冬株数が減少するなど、翌年以降の減収につながります。

(1) 刈り取り危険帯の時期

オーチャードグラスの刈り取り危険帯は、日平均気温が15℃になる日からおよそ40日間となります。なお、年次や地域によって変動する場合がありますが、各地域における平年の刈り取り危険帯の始まり(日平均気温15℃以下になる日)は下表のとおりです。

刈り取り危険帯の開始時期(平年)

奥中山	9月22日
久慈	10月4日
盛岡	10月3日
奥州(江刺)	10月6日
一関	10月9日

※日平均気温が15℃以下となる日

(2) 施肥

刈り取り危険帯の時期に窒素成分を供給すると、養分の蓄積が止まり、分げつや成長が始まります。この時期は刈り取りだけでなく、施肥も控えてください。また、窒素成分を多く含んだ堆肥の施用も避けましょう。

農作物技術情報第8号は10月31日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
※ 発行時点での最新情報に基づき作成しております。
※ 発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

9月15日～11月15日は秋の農作業安全月間
慣れと油断が事故のもと いつもの作業もまず確認！

中央農業改良普及センター県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。